JAIST Repository
https://dspace.jaist.ac.jp/

Title	エコツーリズムの構造モデルと地域の主体性について
Author(s)	敷田，麻実；森重，昌之
Citation	環境経済・政策学会2000年大会・報告要旨集：262-263
Issue Date	2000-10
Type	Conference Paper
Text version	publisher
URL	http://hdl.handle.net/10119/16878
Rights	Copyright (C) 2000 環境経済・政策学会．敷田麻実，森重昌之，環境経済・政策学会2000年大会・報告要旨集，2000，pp.262-263.
Description	

JAIST
JAPAN
ADVANCED INSTITUTE OF
SCIENCE AND TECHNOLOGY

Japan Advanced Institute of Science and Technology

エコツーリズムの構造モデルと地域の主体性について

A Study on the Structural Model of Ecotourism and the Regional Autonomy

敷田　麻実[1]・○森重　昌之[2]
SHIKIDA Asami, MORISHIGE Masayuki

1．目　的

エコツーリズムは1980年代後半から観光の一形態として認知され、1990年代以降注目を集めている観光分野である。エコツーリズムの形はさまざまであり、一定の定義に当てはめることは難しいが、「自然環境への負荷を最小限にした上で、観光の目的地である地元に対して何らかの貢献や利益のある観光」であると考えられる。これまでエコツーリズムの発展を具体的に評価または把握する方法は、個々のケーススタディを行った調査場所やその時点での評価しかなく、相対的な比較や時間的変化の考察を試みた研究は少ない。そこで、エコツーリズムの構造モデルに基づいた地域のエコツーリズム評価手法を提案した。

2．内　容

本研究で提示するモデルは「環境の保全」、「観光の発展」、「地域の振興」の３要素をもとに、新たにこのバランスをとる要素を加えたものである。地域資源の持続的利用のためには資源に対する配慮、資源管理が必要であり、その実現のために必要な要素として「地域による主体的な管理」が考えられる。そこで、今回の構造モデルでは先の３要素で構成される三角形に、第４番目の要素である「地域の主体性」を加えた三角錐型モデルを提唱した（図１）。この構造モデルでは、三角錐の頂点にある「地域の主体性」によって、底辺の三角形はさまざまな形状に変化するが、この形を決定するのが地域による判断である。このコントロールが働いていない場合には、ある要素が地域の意思とは関係なく欠落するなどの問題を起こしたりする。このように、「地域の主体性」がエコツーリズムをコントロールする構造モデルは、エコツーリズムの導入や今後の展開を考える際に、個々の問題にとらわれて全体が考えられなくなるという隘路に入ることを防ぐことができる。

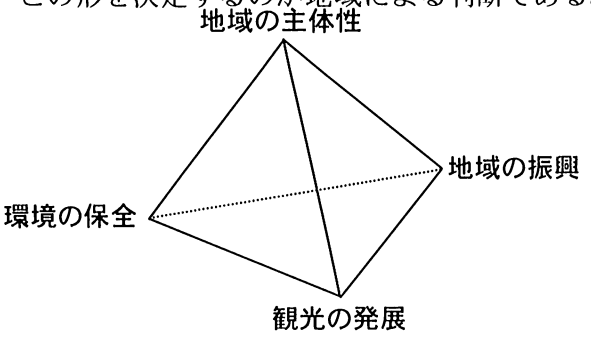

図１　エコツーリズムの構造モデル

[1] 金沢工業大学環境システム工学科　Division of Environmental Engineering, Kanazawa Institute of Technology
〒921-8501 石川県石川郡野々市町扇が丘 7-1　TEL: 076(294)6712／FAX: 076(294)6736　E-mail: shikida@neptune.kanazawa-it.ac.jp
[2] パシフィックコンサルタンツ㈱新事業開発本部 NPM 開発室　New Public Management Department, Pacific Consultants Co., Ltd.
〒206-8550 東京都多摩市関戸 1-7-5　TEL: 042(372)6313／FAX: 042(372)7852　E-mail: Masayuki.Morishige@ss.pacific.co.jp

次いで、エコツーリズムのバランスを示すために、評価表で表す方法を提案した（表１）。各要素に該当する項目を掲げ、該当する項目が多ければ多いほど、三角形の中心から各要素を示す頂点までの距離は伸びていくことになる。その結果、重点が置かれている要素の姿が明らかになってくる。逆に、例えば「環境の保全」に力を入れるなどといった形で、今後エコツーリズムをどのように振興したいかを検討する場合にも、評価表の中の項目をチェックすることにより、計画の中で重点を置くべき内容を明らかにできる。

また、この評価表の項目は限定されているのではなく、各要素ごとに増やしても構わない。項目はその要素を積極的に評価する内容で追加できる。さらに、この評価表では三角錐の底辺だけでなく、頂点にある「地域の主体性」についても評価することができる。「地域の主体性」についての項目が多いほど、底辺から三角錐の頂点の高さは高くなる。

表１　エコツーリズムの構造モデルにおける各要素の内容

環境（文化）の保全度	観光の発展度	地域の振興度	地域の主体性
地域の環境マップができている エコツーリズムを維持するためのガイドラインができている エコツアー客の増加について何らかの規制策がある エコツーリズムの影響のモニタリングが行われている ゾーニングが行われている インタプリターの養成組織がある	エコツアー客が多く訪れるようになった エコツアー客のリピーターが多い 旅行者がエコツアーを企画している	地域内のインタプリターが活用されている エコツアーの拠点施設が作られている エコツアー客が地域内で宿泊している エコツアー客に地域産品を販売している	エコツーリズムの導入に際し、地域住民の話し合いがもたれて決定した 地域住民による地域の環境学習が十分に行われている エコツアーは地域内の旅行業者が運営している 新たなエコツアーの開始に際して地域に相談がある エコツーリズムガイドラインは地域が作成した

３．結　論

本研究で提案した構造モデルには、従来のエコツーリズムモデルや観光モデルにはない地域の主体性という要素を取り入れた。また、エコツーリズムの具体的評価や今後のエコツーリズムの実現目標が設定できるように、この構造モデルを具体化する手法についても述べた。特に、このモデルでは地域の主体性についても表すこともでき、三角錐の形状から、ある地域におけるエコツーリズムの現状や、今後その地域で目指すエコツーリズムの姿が描けると思われる。

【付記】
本研究は社団法人北陸建設弘済会第５回「北陸地域の活性化」に関する研究助成事業『都市と中山間地域の交流・連携の視点から見たエコツーリズムのあり方についての研究』の成果の一部である。